

大震災 防災に女性の視点を!

東日本大震災や阪神淡路大震災を経験するなか、避難所における仮設トイレの設置場所や男女別の更衣スペースの確保など、女性の視点からの防災対策の必要性が指摘されています。

そこで今回は、被災地支援活動を通して体験されたことを九州各地で講演をされている、大分県社会福祉協議会専門員の村野淳子さんにお話を伺いました。

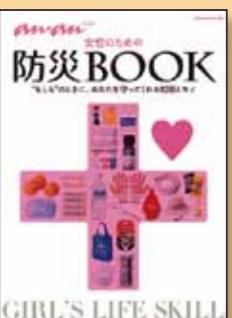
村野 淳子さん
(大分県社会福祉協議会専門員)



防 災は男性の分野というイメージが強いのですが、性別や年齢を問わず、誰もが災害時に活躍できるよう、日頃から地域で応急手当の方法や避難時に必要な知識、防災資機材(バール、ジャッキ等)の扱い方の学習会などに参加するとともに、女性も防災に対する共通認識を持ち、男性とともに地域コミュニティのリーダーとして重要な役割を担うことが大切です。また避難所では、妊婦や乳幼児に関することなど女性のニーズにも的確に対応できるよう、地域の防災計画の決定過程に、女性も参画できる環境をつくることも忘れてはいけないと 思います。

震災などの災害に対して日常から心がけておくことがありますか？

書籍紹介



「女性のための防災BOOK」

マガジンハウス編

「もしも、今日、大震災が起きたら…。いま避難リュックに入っているものは、本当に私を助けてくれるの？」「東日本大震災をふまえて、わかったこと。女性にとって本当に役立つグッズとは？」事前に知っておきたい情報や準備しておきたい物資などを、ひとめで分かる形で紹介している女性のための防災マニュアル。

(男女共同参画推進室で貸し出しています)



事業リポート「男女共生セミナー」

コミュニケーション能力UP↑講座（2回講座）

1月28日、2月4日、大分市のコンバルホールで、男女がお互いを理解し尊重し合える関係づくりを目的に、コミュニケーションのとり方や、心地よい考え方・感じ方等の手法を学ぶ講座を開催しました。

内容
第1回『相手の話を聞く能力UP↑講座(女性のための傾聴力基礎編)』 講師：心理カウンセラー 松木和美さん
～家族とのよりよいコミュニケーションのために～

第2回『相手の心理を知る能力UP↑講座(心理学入門)』 講師：医師 竹内小代美さん

家事・育児能力UP↑講座 for MEN（3回講座）

2月12日、18日、25日の3日間、大分市コンバルホールで、男性の家事・育児の能力向上を目的に、子どもと遊んだり、家事のスキルを学んだり、仲間づくりができる講座を開催しました。

内容
第1回『子どもとふれあおう！子どもと本をよもう！』 講師：おおいたパパくらぶ 大西正久さん
第2回『くらしに役立つ衣食住 片付け・掃除編』 講師：大分友の会 会員
第3回『パパ友、家事男(カジダン)仲間をつくろう！』 育児体験発表など 講師：おおいたパパくらぶ 篠原丈司さん



多くの避難所では、自治委員(男性)がほとんど)などが、そこの責任者となり、避難所の間取りを決め、生活に関わる物品を管理します。そこでは、女性の視点が反映されることが少なく、女性用と男性用の仮設トイレが隣り合わせだったり、授乳スペースや女性用洗濯物の干場がなかつたりと、女性への配慮が少ない避難所も多いようです。さらに女性用品を受け取るにも、必要個数を避難所責任者(自治委員などの男性)に申請するケースがあるなど、女性の心理的な負担も大きいようでした。

避難所では女性の心理的な負担が大きいと聞きますが？

被災地では「オトコは仕事、オナナは家庭」という固定的な性別役割分担意識が強くなると聞きますが？

男 性は早い段階で避難所生活から離れ、職場復帰して日常生活に戻る人が多い一方、女性は家事や育児、介護などを担う人が多いことから、被災地では固定的な性別役割分担意識が強くなると感じるケースも多いようです。このようなことから、家族の中では、一部の人に負担が集中しないよう、また一つの作業においては、一方の性に偏らずに、みんなが公平に作業を行うことに気をつけローテーションを組み、男女がともに活動できるようにすることが性別役割分担意識が強くならないポイントだと思います。



大 震災などの混乱時には、家庭や地域コミュニティにおいてストレスが高まることがあります。そのため避難所では夜警団をつくり、仮設トイレや通路をパトロールする必要があるとともに、未然に防ぐ手立てをあらかじめ防災計画に組み込んでおくことも重要です。さらに女性や子どもへの暴力が起きた場合に備え、専門家がサポートに入る仕組みも考えておく必要があります。



大震災などの災害では、女性に対する暴力が増えるとの報告を聞いたことがあるのですか？